

会 議 録

会 議 名	平成28年度第3回野田市コミュニティバス検討専門委員会議
議題及び議題毎の公開又は非公開の別	1 運行見直し後の利用状況について（公開） 2 まめバス運行計画作成支援業務の実施について（公開） 3 まめバス利用者400万人達成記念事業について（公開）
日 時	平成28年11月17日（木） 午後1時30分から午後2時20分まで
場 所	市役所高層棟5階 512会議室
出席委員氏名	石 塚 一 男、齊 藤 達 夫、中 村 恵美子、 原 正 之、谷田貝 しづ子
欠席委員氏名	無し
事 務 局	今 村 繁（副市長） 遠 山 康 雄（企画財政部長） 宮 澤 一 弥（企画調整課長） 中 村 正 則（企画調整課長補佐） 道 下 誠（企画調整課調整係長） 野 本 勝 大（企画調整課主任主事）
傍 聴 者	3名
議 事	平成28年度第3回野田市コミュニティバス検討専門委員会議の会議結果（概要）は、次のとおり

(副市長挨拶)

副市長 前回の会議で意見を頂き、専門的な調査が必要だということで、臨時議会を開催させていただき、調査の業務委託について承認を頂いた。

調査の結果等については、随時、御提示し、議論を深めていただきたいと思っている。

調査は、単にまめバスだけでなく代替手段等も含めて幅広に行うもので、今後、結果等を踏まえて議論をお願いしたい。

原議長 本日は傍聴希望者が3名おり、傍聴を許可していることを報告

原議長 では、議事に入る。事務局から説明をお願いします。

(1) 運行見直し後の利用状況について

<事務局説明>

- ・運行見直し後の利用状況について、平成 27 年 7 月から 10 月までと平成 28 年 7 月から 10 月までの 4 か月間の利用状況の比較をすると、運行日数は、平日と休日とで若干の日数の違いがあるが、6 ルート合計で 7,859 人減少している。
- ・ルート別での利用者数は、新北ルートを除く全てのルートにおいて下回っている。特に南ルートの落ち込みが大きく、ついで北ルートの順で下回っている。また、関宿城ルートにおいては、12 便から 4 便減したことから、約 4 割の減となっている。
- ・1 日当たりでの平均を見ると、平日の新北ルートは増となっているが、その他のルートは、減となっている。北ルート、南ルートの順に大きく減少した。土日祝日の場合では、北ルートは昨年度の同時期の数値を維持しているが、南ルートは大きく減となっている。これは、1 便当たりでの平均でも、同様の状況となっている。
- ・利便性の向上を狙い新設したルートで、野田市駅から回送で始発地の大利根温泉停留所へ向かっていた便を実車便として運行を始めたものが、前回の報告では、1 か月間で成果は出ていない旨、御報告をさせていただいたが、その後、少しずつだが、利用者が出てきている。今後の動向についても、引き続き確認してまいりたい。

- ・キッコーマン総合病院内に乗り入れているバス停については、前回の会議でも報告したが、乗り入れて便利になったとのお声を頂いている。
- ・前回の会議では、ダイヤ改正の影響による利用者減も考えられるため、今後、乗車人数はある程度回復してくるだろうと考えている」と申し上げているが、なかなか数字が戻ってこない状況で、かなり厳しい状況であると認識している。引き続き、利用促進策に努めていく。

原議長 事務局から説明があったことに、質問、意見等あるか。

(質問、意見等無し)

原議長 それでは事務局の説明のとおりで、了承する。

原議長 続いて、議事(2)について、事務局から説明をお願いします。

(2) まめバス運行計画作成支援業務の実施について

<事務局説明>

- ・まめバスの運行計画については、前回の専門委員会議の中で「まめバスを今後も持続可能な形で運行していくに当たって、調査会社に調査を依頼するということはできないか」との御意見を頂き、事務局で検討し、運行計画作成支援業務として委託することとして、10月に行われた臨時議会において、業務委託料の予算を措置した。
- ・運行計画作成支援業務の概要及び今後のスケジュールについては、次のとおり。
 - ① 業務名は、「野田市コミュニティバス(まめバス)運行計画作成支援業務委託」
 - ② 委託期間は、平成30年の3月23日までの2か年間の継続事業となるもの
 - ③ 業務の目的は、「関宿地域から市役所等の公共施設へのアクセス性を高めるとともに、両市町の公共交通不便地域の改善を図り、新市の一体性の醸成及び均衡ある発展に資する」ことを基本方針として運行しているまめバスについて、基本方針の見直しの必要性も含めた検証をし、市民の利便性の向上を図ることができる運行計画を作成するための調査、

資料の作成及び提供を目的としているもの

- ④ 業務の内容は、現状のまめバスや他の交通機関の運行・利用実態の把握等をした上で、運行ルート、便数、運行時間帯の提案及び収支予測をするもの
- ⑤ 主な調査内容は、ア 現状の利用実態の把握のためOD調査方式による乗降調査、イ 他の交通機関である路線バスや企業バス等について、連携の可能性を検討する基礎資料として、運行の実態や利用状況を把握する調査、ウ イの調査を踏まえ、複数の運行ルート、便数、運行時間帯の提案及び収支予測を行う。そのほか、他団体のコミュニティバスやデマンド運行の成功例や失敗例等の事例収集及び原因分析を行い、野田市への導入可能性について評価、検討するものとしている。

また、検討専門委員会における会議資料についても、作成支援を行うこととしている。

※ OD調査とは、バスの利用者が、どのバス停で乗って、どのバス停で降りるかまでを、一体として把握する調査

・今後のスケジュール（案）は、次のとおり。

- ① 今月末に、この支援業務の入札事務を実施。委託事業者を決定し、契約書を取り交したのち、来月から業務に着手する予定
- ② 本件の業務委託の実施期間を考慮し、当初の専門委員会議で示した、30年4月からの新運行計画での開始を1年遅らせる形で、平成31年4月から新運行計画による運行を開始したいと考えている。

なお、今年度末までに乗降調査、他の交通機関のヒアリングを実施し、中間まとめを行い、来年度から運行方針の検討、収支予測に着手することで進めたいと考えている。

- ③ 年明け2月頃に、今年度第4回目の会議を予定させていただいている。検討の方針や調査状況等について報告し、来年度の5月の会議には、事業者からの中間まとめによる調査報告と併せて、現コンセプトの検証結果について報告する予定としている。その後、8月には、運行計画の見直し（案）を提示させていただき、10月には、見直し（案）を決定したいと考えている。その見直し（案）を基に、パブリック・コメント手続を経て、30年2月末までに新運行計画を決定する予定として

いる。

- ④ 平成 30 年度以降は、まめバス運行事業者の公募手続を経て、事業者の決定、協定の締結を予定している。

協定の締結後、運行事業者には、運行ダイヤ等の調整を行っていただき、ダイヤの確定を経て、国への運行認可手続を行っていただくものとなっている。

このようなスケジュールで運行計画の見直しを進め、平成 31 年 4 月から新たなルートで運行を開始する予定となっている。

原議長 説明があったことに、質問、意見等あるか。

原議長 資料に平日 5 日、休日 1 日とあり、平日 4 日間の調査は、市職員とあるが、これでよいのか。平日 5 日間の調査ではないのか。

宮澤企画調整課長 調査会社による調査が平日 1 日、休日 1 日行われ、それ以外の平日 4 日間分を市職員が調査するというので、記載しているもの。

中村委員 素朴な質問だが、運行計画作成支援業務を委託する会社の実績について、これまでに、同様のコミュニティバスの調査の実績はあるのか。

宮澤企画調整課長 専門事業者を入れたから効果が出たか否かという点については、確認していないが、指名参加業者として市に登録されている業者を指名するもので、バスの運行計画の作成支援等の実績がある法人を指名するもの。

谷田貝委員 補正予算が可決されたが、議会の中で、反対とかはなく、満場一致で可決されたものか。

宮澤企画調整課長 満場一致で可決されたもの。

谷田貝委員 市民の代表の議員さんたちも、まめバスをしっかりと

う考えであるということ、方向であるということか。

副市長 まめバスだけでなく、代替策なども含めて総合的な調査をするということに、賛成いただいている。

中村委員 市民の利便性といったことだけでなく、観光といった視点を計画に入れる予定はあるか。

谷田貝委員 同様の話で、観光協会が、築田家の歴史を中心にしたもので、国から補助を頂くということで、観光協会の会議で話があり、その会議でまめバスの利用をということをし上げたが、そういったものにまめバスの利用が入る余地はあるのか。

副市長 今回の見直しの中では、観光までを含めた調査を実施する考えはない。観光を意識してやるとなると、生活圈との関係がある。基本的には、市民の足としてのまめバスであり、それが観光にうまく合えばというのはあるが、調査の中で、観光を重要な要素と考えているものではない。

齊藤委員 調査の結果については、今後どのように取り扱うのか。専門委員会のみで検討するのか。議会に提出して、検討するのか。専門委員会会議で検討して、更に議会での検討となるのか。

副市長 調査の途中経過等については報告し、仕様との関係もあり、できることとできないこともあるが、御意見があれば、コンサルタント会社に随時依頼するなど柔軟に対応する。

議会に対しては、市政一般報告の中で調査経過や検討専門委員会会議の内容は随時報告し、そうすれば当然、一般質問等で議論が出てくると考えている。

齊藤委員 議員も関心があることかと思っている。議会において意見があれば、専門委員会会議に報告していただければと思う。

副市長 議会で出た意見は、随時検討専門委員に報告、提供させていただく。

中村委員 調査について、実際に乗っている人を対象にしているが、潜在的なニーズ、乗っていない者が新たに乗るような、ニーズの掘り起こしについては調査しないものか。

副市長 潜在的なニーズの調査というのは行わない。今利用していない人に、乗りたいかと聞くと、当然乗るとの回答が出てくる。なぜ乗らないのかと聞くと、もっと便数があったら乗る、といった回答は当然考えられる。

際限なく対応はできないことから、潜在的なニーズ調査は行わない。

掘り起こしというよりは、一定の生活圏の中で、このルートが最もよいだろう、これぐらいの割合の人が乗ってくれるだろうという予測の下に実施する。

原議長 市報でまめバスについての情報は流しているが、業者の決定などの報告を、市報で実施する考えはあるのか。

遠山企画財政部長 各議会で市政報告というものを実施している。このことについては、必ず毎議会に市政報告させていただく。市政報告をすると概要ではあるが、必ず市報に掲載される。

副市長 今の時点で、市報の活用というのは、特別考えてはいないが、市民全体の関心事でもあると思うので、どう途中経過を出していくのか、市報に掲載というのは紙面の関係もあるが、検討させていただく。

原議長 ほかに、質問、意見等あるか。

(質問、意見等無し)

原議長 それでは事務局の説明のとおりで、了承する。

原議長 続いて、議事（３）について、事務局から説明をお願いします。

（３） まめバス利用者４００万人達成記念事業について

<事務局説明>

平成 16 年 1 月に運行を開始したまめバスは、12 月中に運行開始からの延利用者が 400 万人に達する見込みとなった。そこで市では、利用者 400 万人達成を記念して、次の三つの記念事業を実施する。

- ① 400 万人達成日当てクイズ
- ② スタンプラリー
- ③ バス乗車の先着 50 人の方に記念品のプレゼント

それぞれの記念事業の概要は次のとおり。

①400 万人達成日当てクイズについては、400 万人に達する日を当てるクイズ。対象者は、野田市にお住まいの方又は野田市に通勤通学されている方。必要事項を明記し、市ホームページ、郵送又は持参で野田市役所企画調整課へ応募。なお、応募は 1 人 1 回に限るもの。応募は既に受け付けており、11 月 30 日までとなる。当選者（50 人まで）には当選はがきを送付し、当選はがきと引き換えで、まめバス特製ステンレスカフェボトルを進呈する。

②スタンプラリーについて、スタンプラリーの対象者は、平成 29 年 1 月 16 日から 2 月 15 日の実施期間中にまめバスに乗車する全ての者。実施期間中、専用のスタンプカードに、バス車内に設置してあるルートごとのスタンプを 3 個集めて、市役所企画調整課又は関宿支所に持参した方に、まめバス特製マグカップを進呈。こちらも 1 人 1 回となる。

③エコバッグプレゼントについて、平成 29 年 1 月 25 日の始発から、各バス先着 50 人に、まめバス特製エコバッグをプレゼントする。

記念事業の PR については、市報、市ホームページ、まめバス車内掲示にて周知している。なお、先月 10 月 27 日に報道機関に対しての記者会見を実施し、11 月 10 日の千葉日報新聞に掲載された。

原議長 事務局から説明があったことに、質問、意見等あるか。

原議長 近隣他市では、記念事業等の実施はあるものなのか。

中村企調整課長補佐 他市の事例について確認はしていないが、過去で言えば、同様に記念事業としてスタンプラリー等を実施している。

利用促進も含めて実施する。

齊藤委員 関心を高めていくために、こういった記念事業は大いにやっていった方がよい。

原議長 ほかにないか。

(質問、意見等無し)

原議長 ないようなので、事務局から連絡事項等あれば。

中村企画調整課長補佐 次回は2月中に実施する予定だが、詳細については未定である。なるべく早い時期に、日程調整するので、よろしく願います。

原議長 では、これでコミュニティバス検討専門委員会議を閉会する。

以上